

第104回 CPD セミナー・公開講座・防災セミナー(香川)

四国本部 事業委員

丸山 正

MARUYAMA TADASHI



1. 概要

2025年7月14日(月)、高松市のホテル パールガーデンにて、第104回 CPD セミナー・公開講座・防災セミナーおよび技術士第二次試験合格者祝賀会を開催した。

参加人数は会場が73名、WEB参加が5名であった。昨年の総会に比べると参加者は幾分少ないように感じた。



写真-2 香西様・浮森様ご講演

表-1 プログラム

1. CPD セミナー(14:10~15:10)

演題 若者が活躍する JR 四国～私の仕事と地域への貢献～

講師 香西若菜氏 JR 四国運輸部運輸課
浮森直紀氏 JR 四国総務部人事課

2. 公開講座(15:20~16:20)

演題 「海城町」の記憶未来へ

講師 西成典久氏 香川大学経済学部 教授

3. 防災セミナー(16:30~17:30)

演題 できる時に、できる人が、できる事をする

講師 藤井節子氏 四国災害ボランティアネットワーク代表

4. 技術士二次試験合格者の紹介(17:30~17:40)

5. 合格祝賀会(17:50~19:50)



写真-1 天羽本部長挨拶

2. CPDセミナー

CPD セミナーでは JR 四国の若手二人が登壇した。彼らは(一社)四国若者会議という場に参画し、様々な発信を行っている。四国若者会議は四国の若者が集う場を提供し、そこでできるつながりから新しい価値の創造を図るネットワークである。

香西氏は JR 四国の運輸系初の女性社員であり、運転手も経験し、今は司令員として勤務している。初の運転手としてこれまで男性しかいなかった職場での環境整備、慣れるまでの苦労などの経験を語っていた。それでも会社として女性活躍に取り組んだおかげで、受け入れる側の意識も高く、また困りごとについても上司と積極的にコミュニケーションをとることで改善できたようで、女性が活躍できる職場の好事例であると思う。しかし、これから迎える様々なライフステージに対してどのような施策をとるのか、やるべきことは多いと思った。

浮森氏は JR 四国の各種取り組みを紹介された。JR 四国は鉄道収入があまり期待できず、関連したマンションやホテル事業にも注力しており、四国以外にも展開している事例を紹介していた。またバスと鉄道の利便性を向上させたモーダルミック

スなど MaaS(Mobility as a Service)にも積極的に取り組んでいる。特にスマホでチケットが購入できるアプリは日本初の取り組みであることが紹介された。



写真-3 西成先生ご講演

3. 公開講座

公開講座では西成先生から「海城町」である高松の成り立ちと残された記憶について講演をしていただいた。高松城が有名な水城であるのは知っていたが、高松の地形的特徴から城が長く海に接し続けられたことは初めて知った。またそこに香東川の付け替えが関与していることは興味深かった。昔は浚渫という技術がなかったため、河口では土砂の堆積で港が使えなくなることがよくあったようだ。また城の広大な用地があったおかげで鉄道整備が容易にでき、四国の玄関口になったという話も興味深かった。

土地の記憶というのは、地形からできていると理解したが、日本の都市の多くが空襲被害により分断されていることも改めて考えた。



写真-4 藤井様ご講演

4. 防災セミナー

藤井氏は2011年当時、コールセンターの業務で対応した東日本大震災被災者の声が心に引っ掛り、

現地に行ってみることにしたそうである。その経験から香川県でボランティア団体を立ち上げ、被災地支援を行ってきた。その後、様々な被災地に向き支援を行っている。

東日本大震災では多くの学生とともに出向き、がれき撤去・住民との交流を実施した。またその経験から重機を操作できる・屋根でブルーシートを張れるなど、災害時に必要なスキルを持った人の重要性に気づき、育成も行っている。

四国は近い将来大きな地震が発生するといわれており、備えは重要である。また海に囲まれており、支援がすぐには届かないといわれており、自分たちでできる事は自分たちですするという心構えは重要であると感じた。



写真-5 新合格者挨拶

5. 懇親会

懇親会は、加藤香川県技術士会会長の挨拶・乾杯で始まった。最後は、谷協事業委員長の中締めまで約2時間歓談することができた。途中には2名の新合格者からの挨拶があり、喜びに満ちたスピーチを聞くことができた。また講師の先生とも楽しく歓談・意見交換ができた。



写真-6 谷協事業委員長による中締め